

注目される飼料イネ 「たちあやか」=中生版「たちすずか」の登場

県立総合技術研究所畜産技術センター 河野 幸雄 氏

これまで解説してきました「たちすずか」は、その優れた特性が認められ、順調に品種の転換が進んでいます。しかし、「たちすずか」は感光性が強い品種で、日が短くなると敏感に反応して出穂するため、早植えしても、遅植えしても収穫適期は10月上旬以降になります。これまで「ホシアオバ」を中心とした早生～中生品種を利用していた地域からは、「たちすずか」のような極短穂型で早く出穂する品種が望まれていました。近畿中国四国農業センターは「たちすずか」シリーズの第二段として、早晩性が「ホシアオバ」に近い飼料イネ品種「たちあやか」を育成し、品種の特徴を公表しました(表1)。

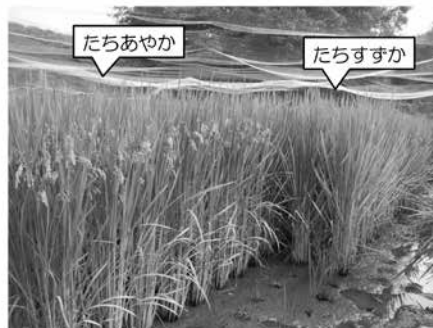
表1 「たちあやか」の特徴 (引用:農研機構成果情報2011)

- ・「たちあやか」は「ホシアオバ」と「極短穂(00個選11)」の交配により育成された品種で、「たちすずか」とは父品種が同じで母品種が異なる、言わば異母姉妹にあたる品種。
- ・早晩性は出穂期が「ホシアオバ」より3日程度遅く、「たちすずか」より16日程度早い“中生の早”。
- ・耐倒伏性は「ホシアオバ」より明らかに強く「たちすずか」並の“極強”。
- ・地際刈りでの全乾物量は「たちすずか」を100とすると「たちあやか」は92でやや少ない。
- ・籾が「ホシアオバ」より大幅に少なく、籾わら比は「たちすずか」と同等。
- ・サイレージ発酵に必要な糖の含有率が「ホシアオバ」より高く、「たちすずか」と同等。

畜産技術センターにおける「たちあやか」の栽培試験結果

平成 24 年度に畜産技術センター(庄原市)で行った栽培試験の結果を図1に示しました。移植は5月15日と2週間後の5月29日の2回に分けて行いました。施肥条件が有効窒素量として10aあたり7kgの水田と14kgの水田を使って「たちすずか」と「たちあやか」を比較しました。

「たちあやか」の出穂日は5月15日移植の場合で8月15日前後には出穂し、「たちすずか」より15日程度早くなりました。「たちあやか」の収量(10aあたりの地上部乾物量)は「たちすずか」の85%～95%程度になりました。



【写真】9月4日の「たちあやか」(左手前)
右奥の「たちすずか」は出穂が始まったばかり

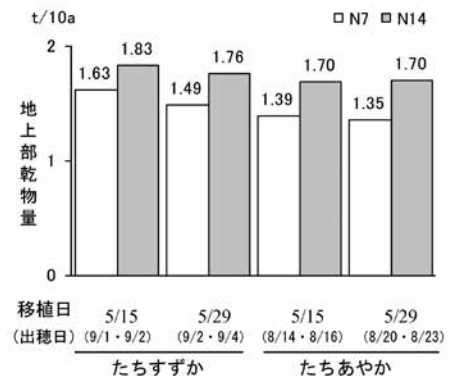


図1 栽培試験結果

「たちあやか」の栽培メリット

以上のように、「たちあやか」は「たちすずか」よりも若干収量が少ない品種ですが、「たちあやか」を使い早植えすることにより、「たちすずか」では実現できなかった9月収穫が可能になります。4月末から5月上旬に移植すれば、8月上旬に出穂し9月上旬から

収穫することも可能になります。このため、極晩生の「たちすずか」と早植えの「たちあやか」を組合せることによって、収穫時期を大幅に拡大することが出来ます(図2)。



図2 「たちあやか」を用いた飼料イネ栽培 (「たちすずか」の11月収穫は肥育向け用)